

報告とお礼

去る12月3日、原子力発電に反対する福井県民会議、ふるさとを守る高浜・おおいの会、若狭の原発を考える会の呼びかけで結成された「大飯原発うごかすな！」実行委員会の主催で、「12.3大飯原発うごかすな！現地全国集会」がおおい町で開催されました。集会には、全国各地から約500人が参加され、北海道から鹿児島までの全国の原発立地、若狭湾沿岸の京都北部と若狭、福井県北部、関西各地の市や町の代表、労働組合の代表、裁判を闘う弁護団などから力強い「大飯原発うごかすな！」のメッセージが発せられました。集会後には、絶好のデモ日和の下、約1時間の町内デモが断行され、おおい町内に「大飯原発うごかすな！」、「原発全廃」の声が響きわたりました。デモに手を振って下さる住民もそこここで見かけられました。以上、ご報告申し上げます。ご参加、ご支援を戴きました皆様には、心よりお礼申し上げます。

なお、10月15日には、「大飯原発うごかすな！関電包囲全国集会」と御堂筋デモが、衆院選の最中、しかも豪雨という悪条件にもかかわらず、600人の結集を得て勝ち取られ、「原発電気はいらない」の決意を示しました。

「大飯原発うごかすな！関電包囲全国集会」と「12.3大飯原発うごかすな！現地全国集会」の大きな成果の上に、若狭の原発の全廃を勝ち取りましょう！

以下に、12月3日の集会とデモに関する新聞記事、写真を、裏面に「12.3大飯原発うごかすな！現地全国集会」の集会決議をコピーいたします。

大飯原発3、4号機の再稼働反対集会とデモ 全国から500人が集結 おおい / 福井

毎日新聞 2017年12月4日 地方版



大飯原発再稼働に反対し横断幕などを手にデモ行進する人たち
＝福井県おおい町で、高橋一隆撮影

関西電力大飯原発3、4号機（おおい町）の再稼働に反対する全国集会とデモが3日、同町であり、原発が立地する各地で活動する人たちが登壇し「原発依存に弾みが付く」と再稼働に警戒感を示した。

「原子力発電に反対する福井県民会議」「若狭の原発を考える会」「ふるさとを守る高浜・おおいの会」が呼び掛け、約500人が参加した。

考える会代表で、旧日本原子力研究所の元研究員の木原壮林・京都工芸繊維大名誉教授（化学）は「原発は人類の手におえない」とあいさつ。東京電力福島第1原発事故後も続く再稼働をけん制した。

福島県大熊町の木幡ますみ町議は「私も放射線量を測っているが、除染はできてない」と報告。先月、名古屋高裁金沢支部で結審した運転差し止め訴訟の島田広・弁護団

長も、原子力規制委員長代理の島崎邦彦・東大名誉教授が「過小評価」と証言した理由を計算式を基に解説。「関電はでたらめ」と批判した。

集会後、「大飯原発再稼働反対、高浜原発ただちに止める」などとシュプレヒコールを上げ、町内を行進した。【高橋一隆】

福井) 大飯原発の再稼働反対 おおい町で全国集会、デモ

朝日新聞デジタル 2017年12月4日 03時00分



「大飯原発うごかすな！」の横断幕を先頭にデモ行進する人たち＝おおい町本郷

関西電力大飯原発3、4号機（おおい町）の再稼働に反対する住民団体が3日、同町で「大飯原発うごかすな！現地全国集会」を開いた。「原子力発電に反対する福井県民会議」などが呼びかけ、東京電力福島第一原発の地元・福島県大熊町の町議や原発立地地域の住民ら約500人（主催者発表）が原発の危険性を訴えた。

集会では「若狭の原発を考える会」の木原壮林さんが「関電や政府を震え上がらせるような行動を起こし、民意を無視したら大変なことになると知らせよう」とあいさつ。「ふるさとを守る高浜・おおいの会」の宮崎宗真さんは「福島原発事故の教訓はどこへ行ってしまったのか。電力は足りている。再生可能エネルギーへの転換が求められる」と強調した。

最後に「あらゆる手段を駆使して、粘り強く原発全廃を勝ち取る」との決議文を採択。「原発電気さようなら」などと書かれたのぼりなどを手に町内をデモ行進した。（菱山出）



大飯原発うごかすな! の声
12月3日の集会とデモ；稲村 守氏撮影「さいなら原発・びわ湖ネットワークニュース第21号」より

長い長いデモ行進となった

決議文 大飯原発再稼働の策動を糾弾し、原発全廃を求める！

原発は、事故の多さ、事故被害の深刻さ、使用済み燃料の処理や保管の困難さなど、あらゆる視点から、人類の手に負える装置ではありません。福島事故炉は、現在でも廃炉の見通しが立たず、汚染水は垂れ流され続けています。避難された人々は、除染が進んだとするには程遠く、高放射線インフラも整備されていない故郷への帰還を強要されています。

一方、福島事故以降の経験によって、原発は無くても何の支障もないことが実証されました。したがって、原発を運転する必要性は全く見出だせません。不要な原発を稼働させて、事故のリスクに怯える必要はないのです。

そのため、最近のほとんどの世論調査でも、原発反対は賛成の2倍以上となっています。脱原発、反原発が多数の人々の願いであり、民意であることを示しています。

それでも、関電は、原子力規制委員長までもが「安全を保証するものではない」と言う“新規制基準”に適合とされたことを拠り所にし、また、原発に「絶対的安全性を求めるべきではない」と主張して、去る5月、6月に、高浜原発4、3号機を再稼働させました。

一方、関電は、来年早々の大飯原発3、4号機の再稼働を企てるのみならず、40年超え老朽原発・高浜1、2号機、美浜3号機の再稼働をも画策し、「原発銀座・若狭」の復活を狙っています。脱原発、反原発の民意を蹂躪し、経済的利益のために、人の命と尊厳をないがしろにするものです。また、イタリア、ドイツ、リトアニア、ベトナム、台湾、スイス、韓国が脱原発に向かい、アメリカでも原発からの撤退が相次いでいるという、世界の潮流に逆らうものでもあります。

政府と関電は、若狭の原発を次々に再稼働させることによって、日本中の原発再稼働に弾みをつけ、原発依存時代の再来を狙っています。

私たちは、原発の危険性を再三にわたって指摘してきました。政府や電力会社が、この指摘を無視して、原発を運転して事故が起ったら、それは彼らの故意による犯罪です。許されるものではありません。

私たちは、去る10月15日の「大飯原発うごかすな！関電包囲全国集会」および本日の「大飯原発うごかすな！おい現地全国集会」を突破口にして、電力会社や政府を震え上がらせるような大衆運動を高揚させ、「脱原発、反原発の民意を無視したら大変なことになる」ことを彼らに思い知らせ、あらゆる手段を駆使して、粘り強く原発全廃を勝ち取ることを決議します。

2017年12月3日

12.3 大飯原発うごかすな！現地全国集会参加者一同

人類の手に負えず、人類に不要な原発を動かして、大きな犠牲を払うこと、事故の不安に慄（おのの）くことはありません！

**大飯原発3、4号機の再稼働を阻止し、
原発全廃を勝ち取りましょう！**

2017年12月発行
7102)

若狭の原発を考える会（連絡先；木原；090-1965-

